



各位

日本マクドナルドホールディングス株式会社
 代表取締役社長 サラ・L・カサノバ
 (コード番号: 2702 JASDAQ)
 問い合わせ先 財務本部上席部長 増田 雄高
 TEL 03-6911-6000

平成27年12月期第3四半期連結決算状況のお知らせ

日本マクドナルドホールディングス株式会社の平成27年12月期(平成27年1月1日~平成27年12月31日)の第3四半期累計期間(平成27年1月1日~平成27年9月30日)の連結業績につきまして、下記の通りご報告致します。

ハイライト

- 売上高、利益ともに対前年比で大幅な減少となるが、ビジネスリカバリープランは概ね計画通りに進捗しており、ビジネスは着実に回復基調にある
- お客様の期待に応える最高のQSCを提供し、ブランドの回復と「新・おてごろ宣言」の取り組みを進めることで、回復を加速させ継続的な成長を目指す

(単位: 百万円)

	平成27年第3四半期累計期間		
	実績	前年実績	対前年比
全店売上高*	273,914	344,016	-20.4%
連結売上高	137,547	172,248	-20.1%
連結営業利益	-20,795	238	-
連結経常利益	-22,304	-576	-
連結当期純利益	-29,279	-7,543	-

*全店売上高: 直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高

	平成27年第3四半期累計期間	
	対前年比	
既存店売上高	-20.2%	
既存店客数	-14.5%	
全店客数	-14.9%	

平成27年度第3四半期累計期間は、全店売上高は対前年比701億円減少の2,739億円となりました。この売上高の減少に加えて、ビジネスリカバリープランに伴う投資を116億円実施したことなどにより経常損益は223億円の損失となりました。また、減損損失や戦略閉店などに伴う特別損失を合計68億円計上したことなどにより当期純損益は292億円の損失となりました。しかし既存店売上高対前年比が-32.3%であった第1四半期から第3四半期は-4.0%になるなど、ビジネスは着実に回復基調にあります。

4月16日に発表した4つの柱からなるビジネスリカバリープラン(「よりお客様にフォーカスしたアクション」、「店舗投資の加速」、「地域に特化したビジネスモデル」、「コストと資源効率の改善」)は概ね計画通りに進捗しており、通期業績予想に変更はございません。

10月26日より「新・おてごろ宣言」の取り組みの一つとして開始した「おてごろマック」は今まで以上のバリュー・フォー・マネーを毎日、いつの時間でもお客様に提供することで、お客様に大変ご好評いただいております。今後も引き続き食の安全・安心に取り組むと同時に、ビジネスリカバリープランを進化させ、「目に見える変化」をお客様に提供しながら、ビジネスの回復を加速させて継続的な成長を目指してまいります。最高レベルのQSC(品質、サービス、クレンリネス)と、地域とのより深いつながりの構築に積極的に取り組むことで、お客様に最高の店舗体験を提供するよう取り組んでまいります。

弊社のビジョンである「お客さまと心でつながるモダンバーガーレストラン」を目指して今後も努力を重ねていきます。

以上

※この資料は兜倶楽部、東京商工会議所記者クラブ、外食産業記者会に配布しております。